

## 県立水戸農業高等学校自己評価表

目指す学校像		知・徳・体を身に付けた社会に有為な人材を育成する学校。生徒一人一人の進路希望の実現を支援する学校。魅力ある農業教育を実践し、将来の農業経営者・関連産業技術者を育成する学校。体験学習・国際交流等を通してコミュニケーション能力を磨くことができる学校。地域社会の関係機関・団体・住民等と連携するとともにそれらに開かれた学校。				
昨年度の成果と課題		重点項目	重点目標	達成状況		
<p>[昨年度の成果]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>授業、立哨指導あるいは保護者との連携等を通じた反復指導で基本的な生活習慣を身に付けた生徒が増えた。</li> <li>体験学習によって素直で豊かな心を育む生徒が増えた。</li> <li>教師が、授業を大切にしよう心がけた。生徒の授業に取り組む姿勢が良くなっている。</li> <li>各科、学年、進路指導部等が一体となって指導をしたことにより、進路指導の成果が上がった。</li> <li>感染症への適切な対応ができた。</li> <li>農林水産部等との連携事業により、就農志向者の意識が向上した。</li> <li>いばらきものづくり教育フェアを成功裡に終了することができた。農業クラブ活動の活性化にもつながり、農業高校のPRもできた。</li> <li>農業クラブ関東大会茨城大会を成功裡に終了することができた。</li> </ul> <p>[本年度の課題]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>個に応じた分かりやすい授業に心がけ、授業に意欲的に取り組む態度を育成する。</li> <li>各学年との連絡を密にして、1年次から体系的な進路指導体制の確立を図る。</li> <li>LHR等あらゆる機会を利用して、進路情報を適切に提供する。</li> <li>進路講話やインターンシップ等により、職業体験活動の参加者数を増やし、望ましい勤労観・職業観の育成に努める。</li> <li>道徳教育をあらゆる教育活動を通して行い、規範意識を高め、規則を守れるようにする。</li> <li>生徒会活動や農業クラブ活動を活発にし、魅力ある学校行事を実施する。</li> <li>部活動紹介や見学会等を実施し部活動加入を促す。</li> <li>資格取得を奨励し、学習意欲の向上を図る。</li> <li>いばらきものづくり教育フェアを成功させる。</li> </ul>	・創立120周年記念に向けた取組の推進	・創立120周年記念事業に向け、校内体制を整備する。 ・創立120周年記念事業に向け、保護者・地域・同窓会との緊密な連携を図る。 ・記念事業に向けた取組に触れることで、水農生としての自覚を促す。	B			
	・基本的生活習慣の確立	・挨拶の励行や身だしなみを整えるなど、基本的生活習慣を確立させる。 ・無断の欠席・遅刻・早退を防止し、時間を大切にすることなど、規律ある生活習慣を身に付けさせる。 ・道徳教育や農業教育等を通して、豊かな人間性や素直な心を育む。 ・ボランティア活動等への積極的な参加を通して、思いやりの心を育む。	B			
	・基礎学力の向上	・授業時間を大切に、授業研究を怠らず、授業の質的向上を図る。 ・学力差のある生徒に対する学習指導の在り方についての研究授業や公開授業に積極的に取り組む。 ・自ら学習に臨む姿勢を育成し、生徒個々の能力の伸長を図る。	A			
	・体系的な進路指導と指導体制の確立	・生徒の進路希望に沿った自己実現のために適切な支援を行い、100%の進路実現を目指す。	B			
	・特別活動の活性化	・運動部・文化部等の加入率50%を目指し、魅力ある部活動を展開する。 ・成達会等の自主的活動を推進する。	A			
	・健康と安全教育の充実	・健康管理・交通安全・機械や農薬事故等の防止など、安全教育の充実を図るとともに危機管理・防災・不審者対応などのマニュアルの点検を行う。 ・自然災害等に対する具体的な行動計画を作成し、実効性ある訓練を行う。	A			
	・農業教育の充実	・特色ある学校づくり支援事業の取組を推進することで、農業後継者の育成を図る。 ・全国農業高等学校第2次アクションプラン「エコロジカル・アグリハイスクール宣言」に基づいた実践を行い、その検証と評価を通し、質の保障を図る。 ①播種から収穫まで基本的な農業技術能力を持つ人材の育成 ②食の安全・安心教育の推進 ③インターンシップ・先進農家実習・奉仕体験活動の積極的な推進等 ・プロジェクト学習や各種発表会・競技会等に積極的に取り組ませることにより、農業クラブ活動の充実を図る。 ・いばらきものづくり教育フェアの準備・運営を通して、農業教育の活性化を図るとともに、実践の成果を地域に発信する。 ・資格取得に向けた積極的な取組を行うとともに、その合格率の向上を図る。	A			
・学校施設設備の充実	・東日本大震災からの復旧・復興の推進を図るとともに、教育環境の整備充実を進め、学習活動・特別活動の活発化を図る。	A				
評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	次年度(学期)への主な課題		
教務部	教育活動が円滑・効率的に機能するような取組の研究	新校舎の環境整備を図る。 新教育課程に基づいた教育活動の定着を図る。 職員室の環境整備にあたる。	A B A	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>よりよい授業展開のための環境作りを進める。</li> <li>水農生の潜在力を引き出す授業の研究を進める。</li> <li>基礎学力の向上を目指した進路や学年との連携を図る。</li> <li>学習評価と生徒指導との住み分けの研究をする。</li> <li>中学校や受検生向けの広報活動を充実させる。</li> <li>奨学金制度の広報活動を充実させる。</li> </ul>	
	基礎学力の向上	授業研究(授業参観等)を実施し、授業内容の充実を図る。 授業に対する取組方法や授業改善計画を基により一層質の高い授業を展開する。 観点別評価を基にシラバスを作成し、評価の適正化を進める。 資格取得に向けての取組を強化する(全体計画・指導計画の検討)。	A B B B			
	広報活動の充実	ネットワーク委員会と連携し、ホームページを充実させる。	ネットワーキング委員会と連携し、ホームページを充実させる。			A
		水農体験・学校公開やホームページの充実などを通して学校外へ積極的に情報を発信していく。	水農体験・学校公開やホームページの充実などを通して学校外へ積極的に情報を発信していく。			A
		積極的に中学校訪問を実施する。	積極的に中学校訪問を実施する。			A

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	次年度（学期）への主な課題
生徒指導部	基本的生活習慣の確立	朝の立哨指導を継続実施し、制服を整えさせる。 授業開始時間の着席を厳守させ、授業に取り組む態度を育成する。 挨拶の励行や身だしなみ・言葉遣い等、学校生活における基本的生活習慣を確立させる。 ルールや決まりを守り秩序ある生活ができるよう、特別指導を取り入れ生徒の生活改善をさせる。	A B B	B ・生徒指導に対してより実践的な教員間の共通理解を図る。 ・生徒の基本的生活習慣の向上及び社会秩序に対するマナー・モラルの向上を図る。 ・学校行事や体験活動・ボランティア活動等を通して思いやりの心を育てる。
	安全な学校生活環境の維持	貴重品の自己管理を徹底させ、盗難や紛失防止に努める。 自転車・バイク通学者に対する安全指導の継続と交通ルールを守った運転を励行させる。 立哨指導等を通して、登下校の安全を確保する。 薬物乱用防止教室やケータイ安全教室等の各種講話を通して、法律や規則を守り被害に遭わない生活ができるようにする。	B B A B	
	心の教育の推進	農業教育や道徳教育を通してモラルの向上と命の大切さに気付かせる。 教育相談やカウンセラー、担任との面談等を通して学校生活への適応と自己実現を促す。 ボランティア活動・交流活動・体験活動等への参加を促し、自らの立場を理解して他を思いやる心を育成する。	A A B	
	いじめ防止対策	未然防止として、授業やホームルーム活動を通し生徒の規範意識を高めさせる。 早期発見として、アンケート調査を実施し実態把握に努める。また、生徒や保護者と相談できる環境を整える。 早期解消に向け被害者を保護し、速やかに実態把握及び加害者の対応にあたる。 保護者や警察、相談所等と連携し情報交換をする。 教職員の共通理解と指導力向上を図るための研修を充実させる。	B A A A B	
特別活動部	部活動の活性化	部活動の加入率向上を目指し、運動部だけでなく文化部活動も活性化を図る。 活動の成果を高めるためのリーダーの育成を図る。 各活動場所や部室周辺等の環境整備の充実に努める。	B A	B ・各運動部の競技力向上を図ると共に、文化部の活性化に向けた支援をする。 ・各行事の実施時期を含めた内容の検討を行い、更に魅力ある学校となるよう努める。 ・成達会役員の学校のリーダーとしての意識付けをし、主体的かつ積極的な成達会活動を支援する。
	学校行事の充実	水農祭の内容など計画立案の再検討と会場の環境整備を図る。 各種学校行事への積極的な参加を通して、生徒に達成感を体験させるとともに、クラスの連帯意識を高める。	B A	
	成達会活動の充実	ホームルーム活動、学校行事との連携を深めた各種委員会活動の充実を図る。 成達会役員による昇降口でのあいさつ運動を通して、生徒のマナーの向上を促す。	B	
進路指導部	系統的な進路指導の充実 （多様な進路実現への対応）	3年間を見通し、ホームルームでの進路指導の充実を図る。 学年別の進路講話、進路ガイダンス、面接指導を系統的・計画的に行う。 各種進路情報の収集と積極的活用、情報の共有を図る。 係分担を明確にし、各学年との連携を強化する。進路指導を組織的に行う。	B B B B	B ・進路資料室の活用を図る。 ・就職希望者への早期指導を行う。 ・進学希望者への学力向上のための学習課外を充実させる。国公立大学の専門高校入試対策を充実させる。 ・ハローワークと連携し、進路未決定者への指導を充実させる。
	進学指導の充実	推薦・AO入試・小論文対策・作文やレポートの作成指導・面接指導を充実させる。 進学対策のための課外を実施する。	B B	
	就職指導の充実	就職対応の模擬面接指導、履歴書や礼状の書き方などの添削指導を早期に充実させる。 積極的な企業開拓と継続的な訪問を実施し、就職情報の提供・共有を図る。	B B	
	勤労観・職業観の育成	インターンシップへの積極的な参加、体験型ガイダンスや進路講話を充実させる。	B	
保健厚生部	生徒の健康安全に対する管理運営	健康診断の実施とともに、保健日誌を活用して生徒の健康状態を把握する。 感染症対策及びアレルギーを持つ生徒への迅速な対応に万全を期す。	A	B ・健康状況の把握、アレルギー疾患を抱えた生徒へのより細かな対応を実践する。 ・清掃の徹底を促す。 ・地域と連携した防災対策を進める。
	校舎内外の学習環境の安全と美化	清掃区分の明確化及び担当教員による指導・監督の徹底に努める。	B	
	防火防災対策の徹底	暖房器具の安全な利用を指導する。 綿密な計画の下、避難訓練、降下訓練及び消火訓練を実施する。	A B	
図書部	本校の教育目標に応じた学校図書館作りの研究	農業教育の専門学校として関係書類の整備に努める。 本校の文化センターとしての役割を果たすために、図書・視聴覚資料の整備に努める。 職員研修の成果として、紀要を発行する。	B B B	B ・書籍の整理、管理を進めるとともに古書の目録を作成し、120周年という節目にあたり校内の資料の保管にあたるよう努力する。 ・生徒が読書に関心を持ち、図書館利用が活発となるよう創意工夫すると同時に図書委員会の活動を活性化させる。 ・教材、資料、書籍の更なる充実を図る。 ・視聴覚室の更なる学習環境整備を図る。
	学校図書館を利用した教育の充実	教科指導とのつながりをもった教育資料の充実に努め、授業・自主学習の支援をする。 校内読書感想文コンクール、図書委員研修会等の開催や広報誌の発行により、各種情報の収集と発信に努める。 図書委員会活動を活発にし、生徒の読書活動の活性化を図り、図書館利用者を増やす。	B B B	
	視聴覚機器の充実と利用	授業で利用できるソフトと機器の充実を図り、広く授業・教育活動の場として提供する。	A	
	学校図書館の施設・設備の充実	視聴覚室の空調設備を整備する。	C	
	司書作業の研修と蔵書の整理	利用しなくなった書籍・VHSビデオの除籍作業をする。	A	

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	次年度（学期）への主な課題
渉外 部	P T A総会等の成功	P T A総会等について確実に保護者に連絡するために、案内文書を各家庭に郵送し、参加率を向上させる。 P T A行事と運営委員会を同日に設定し、効率よい開催を目指す。	B A	A ・総会参加率の向上を目指す。 ・各種行事の企画・運営は、現状を維持する。 ・広報誌・ホームページを利用した広報活動も現状を維持する。 ・保護者へのメール一斉配信システムを進める。
	P T A支部活動の持続	支部の会員と学校の支部担当者との連携を深めて、支部の活動への会員の参加者数を増やす。運営委員会を活用して支部の活動の活性化を図る。	B	
	校外生徒指導の実施	校門・後台駅での立哨指導を多くの会員で実施していく。	A	
	主催行事の充実	水農祭・公開講座・視察研修などの工夫を凝らして充実させ成功に導く。	A	
	広報活動の充実	広報誌・HPでの行事の案内や報告など、わかりやすくP T A活動を広報していく。	A	
農 場 部	資格取得の合格率の向上	各学科の専門性を生かした資格取得を計画し、合格率向上への指導を充実させる。	B	B ・資格取得の合格率を高めるための指導方法及び指導体制の充実を図る。 ・農業クラブ大会の各種発表・競技で活躍できる生徒の指導の充実を図る。 ・担い手育成教育の一環として、校外学習や研修の更なる充実を図る。 ・農業分野の専門性を身に付ける職員研修を積極的に取り入れる。 ・環境整備と施設・設備の更新を進める。
	農業クラブ活動の活性化	プロジェクト活動を推進し、生徒の自主的・主体的学習の深化を図る。 農業クラブの各種発表や技術競技に意欲的に取り組ませる。	B B	
	「エコロジカル・アグリハイスクール宣言に基づいた行動」 ①基本的な農業技術能力を持つ人材の育成 ②食の安全・安心教育の推進 ③環境教育の推進 ④開かれた学校を目指すとともに農業教育の普及活動の展開 ⑤奉仕体験活動の積極的導入	各学科の専門に関する知識・技術の学習を通して、基礎・基本の確実な定着を図る。 農業担い手育成事業を充実させるとともに、校外実習体験活動を推進する。	A A	
		校内環境の美化に努めるとともに、安全で質の高い農産物の栽培に取り組む。 農業機械・実験・実習器具の安全な操作や適切な農薬の使用など、学習における安全の徹底を図る。	A	
		地域連携活動の一環として草花の苗等の配布活動を継続する。	A	
		幼稚園児や小学校児童に対し、農業体験活動の指導・援助の学習を展開する。 地域連携を取り入れた学習（研究）活動を推進する。	A	
		農業分野の専門性を幅広く身に付けるよう職員研修を充実させる。 学科連携の下、「農産物直売所」の運営に取り組む。	B B	
事 務 部	予算の計画的な執行	電子調達となり、手続きが煩雑かつ複雑化しただけでなく、見積期間を置かなければならないなどの制約が生じているので、集約した発注を目指し、周知を図り計画的な執行を行う。	C	B ・27年度から新たにオープンカウンター方式による物品調達制度が始まるため混乱が予想される。 ・耐震補強工事が完了したが建物自体の老朽化による小規模補修が増加している。今後も修繕費が増加するようであれば大規模改修の対応判断を行う必要がある。
	施設の長寿命化	老朽施設の修繕修理を予算の範囲内で行い、施設の有効利用の長期化（長寿命化）を図る。	B	
	事務処理の効率化	総務事務システム、電子調達等の制度化により事務の煩雑化・複雑化が著しく、業務が長時間化しているため、集約した発注など事務処理の効率化を図り残業時間の縮小に努める。	C	
	学校徴収金等の滞納の解消	保護者の納入意識の高揚を図るとともに、学年・担任との連携の下、学校徴収金等の滞納者の減少を図る。	B	
国際教育委員会	ニュージーランド研修の充実	語学学習を充実させる。相手国の理解を高めるとともに日本文化の理解を深める。	B	A ・タイに行く年度なので、早期に生徒募集を開始し、充実した交流プログラムを計画する。
	タイとの交流の充実	昨年度タイに行った生徒を中心に受け入れ態勢を作り、両校の親睦を図る。	A	
ネットワーク委員会	教育情報ネットワークの環境の整備	県教育情報ネットワークの更新及び新校舎完成に伴う校内ネットワークのシステム整備並びにネットワーク使用基準を作成する。	B	B ・ホームページの全面リニューアルが終了した。今後は新しい情報を発信できるように更新を適宜行いたい。 ・校内のネットワーク環境を整備し、使用基準を作成したい。
	ホームページの更新	時代に即した情報を発信できるようホームページを全面的にリニューアルする。	A	
寮務委員会	基本的生活習慣の確立	規律ある共同生活を通して、挨拶を励行し、時間を守る態度を育て、自主・自立の精神を身に付けさせる。	B	B ・長期生へ、長期生としての自覚（水農の大黒柱）をどのように持たせるか、検討する。 ・寮の有効活用を図る。 ・農業科・園芸科・畜産科の女子の増加にどう対処すべきか、検討する。
	寮運営の改善及び活性化	寮運営の在り方を検討し、次年度に向け準備をする。また、寮の有効活用を検討し、できることから実践する。	B	
	家庭・地域との連携	寮の生活・規則について、保護者に対して周知を図り、連携を図る。	B	

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	次年度（学期）への主な課題
1 学 年	基本的な生活習慣の確立	規律ある生活習慣を身に付けさせるために、朝の読書タイムの実施や清掃活動の徹底など、日頃の小さな取組を積み重ねていく。また、2年次に120周年式典を迎えることを自覚させ、規範意識を持った行動ができるよう学年集会やLHR等と授業を有機的に結び付けて指導していく。	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>朝の読書タイムを実施したことで、SHRが落ち着いて実施できた。また、遅刻も多少減っている。次年度に向け、朝読の充実を図り規律ある生活習慣の確立に努めたい。また、生徒の規範意識向上のため 更なる指導に努めたい。</li> <li>学年で始めた朝課外に17名が参加した。次年度に向け、朝課外の充実と様々な学習体験を取り入れたい。また、就職希望者に対する職業観を身に付けさせる取組を充実させたい。</li> </ul>
	進路指導の充実	昨今の厳しい進路状況に対し、1年次より勤労観・職業観を育成するため、進路指導部等と連携し、課外授業やガイダンス等を実施する。また近年基礎学力が重要視されているため、資格取得等への積極的な取組を通して、学習習慣を身に付けさせる。	A	
	活力ある生徒の育成	運動部・文化部等への加入やボランティア活動、また農業クラブ活動への積極的な参加を促すことで、活力ある生徒の育成を目指す。	B	
2 学 年	基本的な生活習慣の確立	1年次にスタートした朝の読書や清掃活動の徹底を継続し、良い生活習慣を身に付けさせる。120周年時には卒学年になっていることを自覚させて、上級生としての誇りと責任感を持たせる。普段の授業や学年集会、LHR等を有機的に活用し、規範意識を持った生徒を育てる。	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>120周年の最高学年としてふさわしい態度と、社会に出て通用する規範意識とマナーを身に付けさせる。</li> <li>各種ガイダンスの効果で進路意識が高まってきているので、更に一人一人の進路希望の実現に向けて、団結して臨む。</li> <li>部活動・各種学校行事・ボランティア活動等に積極的・主体的に参加させて、学校を活性化させる。</li> </ul>
	進路指導の充実・基礎学力の向上	卒学年での進路決定に向けて、進路指導部と連携しながら各種ガイダンス等を実施し、勤労観・職業観を育てる。近年、進学でも就職でも基礎学力が重視されるので、課外授業や資格試験へのチャレンジも生かして、基礎学力の向上を目指す。	A	
	活力ある水農生の育成	学内では、部活動や学校行事に主体的に取り組みせ、学外では、大きな大会や農業クラブの活動にも積極的に参加させる。そうした活動を通して活力ある水農生を育成する。	B	
卒 学 年	進路の実現	自己の進路実現のための目標を立てさせ、個々の進路に応じた進路指導を行う。面接指導を充実させ、繰り返し指導を行う。	B A	<ul style="list-style-type: none"> <li>基本的な生活習慣の定着を図る。</li> <li>基礎学力の向上を図る。</li> <li>進路実現のための早期指導を行う。</li> </ul>
	基本的な生活習慣の定着	家庭との連携を密にして、無断での欠席・遅刻・早退を防止する。進路について意識させ、望ましい態度や正しい言葉使いなどができるようにする。	B B	
	規範意識の高揚	卒業学年であることを自覚させ、目標を持った生活を送らせる。ルールを守ることの重要性を認識させ、自ら善悪の区別ができるようにする。	A A	
農 業 科	農業教育の充実	魅力ある農業教育を工夫し、農業や自然環境を大切に育てる態度を育成する。農作物の育成を通して、思いやりや環境への関心を高める。専門教育学習（プロジェクト学習等）を推進する。	A B B	<ul style="list-style-type: none"> <li>農業や自然環境を大切に育てる態度と心、農作物の栽培を通して、豊かな人間性や素直な心の育成を図る。</li> <li>進路の自己実現に向けて、基本的な生活習慣、学習態度の育成を図り、個人の能力に応じた指導に努める。</li> </ul>
	基本的な生活習慣の確立	挨拶を励行し、規則や時間を守り、自立できる基本的な生活習慣を育てる。基本的な学習態度の育成を図り、個人の能力に応じた指導に努める。	B B	
	学習環境の安全と美化	農場実習棟や更衣室等の清掃区分を明確にし、指導・監督の徹底に努める。実験実習室内外の美化及びごみの分別の徹底と軽量化に取り組む。	C B	
畜 産 科	授業態度の向上	授業・実験・実習の開始時の整列を励行する。返事・服装の指導を行い、きちんとした態度で学習させる。実験実習の準備から展開・後片付けまで、生徒の実験実習における自主的参加を図る。	B B	<ul style="list-style-type: none"> <li>授業開始時間を徹底させる。</li> <li>畜産場の施設等の整理整頓を励行する。</li> <li>資格取得の合格率を上げる。</li> <li>畜産部の活動を活発にする。</li> <li>伝染病予防対策と地域社会への牧場開放の両立を図る。</li> <li>課題研究の内容を充実させるとともに、生徒が自主的に取り組めるように指導する。</li> </ul>
	体験教育の推進	主体的、創造的に家畜や動物に触れ、生命の大切さを感じる教育を実践する。（分娩管理実習・解剖・解体実習の活用・畜体の測定・動物の運動・食品の加工）	A	
	個に応じた指導	課題研究において、一人一人の目標に沿った課題の設定や内容の充実を図る。専門科目の特色を出し、資格取得の目標を持たせるなど教育内容の充実を図る。	B B	
	畜産場の地域社会への開放 わかりやすい授業の展開	牧場を地域社会に積極的に開放し、教育活動の活性化を図る。専門科目学習教室授業（座学）と実験実習を有機的に結び付け、意欲的に学習する態度の育成を図る。	B B	
園 芸 科	わかりやすい授業の展開	専門科目学習教室授業（座学）と実験実習を有機的に結び付け、意欲的に学習する態度の育成を図る。	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>「農業と環境」の授業では実習で栽培する作物を増やし、実習と座学をリンクさせた授業展開により、園芸科の目標を生徒に明確に示すことができた。</li> <li>栽培に関してはおおむね目標に到達したが、不十分な所もあるため次年度以降も検討していきたい。</li> <li>県大会において最優秀を狙えるよう指導体制を強化していきたい。</li> </ul>
	園芸作物の栽培技術の習得	プロジェクト学習の取組と、育苗から収穫までの栽培管理実習の強化を図る。特に直売所の運営に積極的に参加させ、年間計画から販売までを通して、6次産業化する農業に実情に合わせた指導をしていく。	B	
	プロジェクト活動・課題研究発表会の充実	課題研究・農業クラブ活動で、一人一人がテーマを設定し、自ら問題を解決していく力を育成する。特に地域との連携を深められる活動を強化していく。課題研究発表会で、意欲的に発表できるようプレゼンテーション能力の育成ときめ細かな指導を行う。	B	

評価項目	具体的目標	具体的方策	評 価	次年度（学期）への主な課題	
農業土木科	理解に繋がる授業の展開	各学年において、段階的な学習活動を確立し、基礎・基本を踏まえた授業を展開する。授業の目標や到達点を具体的かつ明確にし、理解できる授業の実施と授業内容の充実に努める。	B	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域社会において社会貢献ができる人材を育成する。</li> <li>・農業土木関連の専門的資格取得を推進し、生徒のキャリア育成を促す。</li> <li>・建設業協会等、関連団体と連携した学習指導を推進し、生徒のキャリア育成を促す。</li> <li>・社会貢献の観点から課題研究の内容を精選し、キャリア育成に繋げる。</li> </ul>
	理論と実技の一体化	理論と実務演習を連動させた授業を展開することで、知識と技術の定着を図る。	B		
	プロジェクト学習の推進	社会貢献及び地域貢献を目標としたプロジェクト学習や課題研究の展開など、生徒が積極的、主体的に学ぶことができる学習環境を整える。	B		
	社会貢献・地域貢献活動の推進	生徒が学ぶフィールドを校内から校外に広げることで生徒の学習意欲を高め、キャリア形成及びシティズンシップを高める学習機会を整える。	C		
生活科学科	「つくって食べる」という食農教育の推進	自産自消、旬産旬消、地産地消という考えを基本に、有機農法で作物を作り、自給の体験を通して生きるということの本質を理解させる。	B	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地産地消を念頭に置き、3年生では個別に2年生では班ごとに圃場を分担して、それぞれ好きな作物を有機栽培で栽培・調理し全員で評価し合う。</li> <li>・基本的生活習慣を身に付けさせる。</li> </ul>
	自立した生き方、本来あるべき生き方の探求	1年 「作物を栽培して、それを食材として調理・加工して食べること」に興味を持ち、食べることの本質を理解する。農業と環境について理解させる。 2年 栽培管理ができるようになることを通して、自信と誇りを持たせる。 3年 自ら課題を設定し解決することで、自立した生き方につなげさせる。	B		
			B		
			B		
食品化学科	クリーンで安全な環境づくり	清掃を徹底する。備品・薬品を整理する。授業・実習中の安全教育を徹底する。実験着・実習服の適切な着用を徹底する。	B	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・おおむね目標は達成できた。</li> <li>・資格取得で合格者の増加を目指す。</li> </ul>
	進路指導の充実	進学希望の生徒に対する計画的・継続的な支援の在り方を検討する。	A		
	基本的な生活習慣の確立	登校時・授業における服装指導を徹底する。	A		
農業経済科	基本的な生活習慣の確立	ホームルームや授業を通して身だしなみやマナーについて常に意識させる。	A	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・資格の合格率を上げる。</li> <li>・授業や資格取得などを通して進路への意識付けをする。</li> </ul>
	学習意欲の向上	資格取得など生徒一人一人の目標を定めることにより、意欲的に学習に取り組ませる。	B		
国語科	進路指導の充実	進路意識を高め、自己の進路実現のための態度を育てる。	B	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業への取組方法を工夫したり、漢検への受験意欲や合格率を上げる。（基礎学力を定着させる。）</li> </ul>
	基礎学力の向上	生徒の実態を踏まえ授業の展開を工夫し、基礎・基本の定着を図る。授業参観を実施し、学習指導の手だてや工夫を協議し指導力の向上に努める。漢字力をつけるため授業や定期考査に継続的に取り入れる。また、漢字学習への意識向上や定着のため漢検を活用する。	A		
	表現力の向上（進路対策）	目的や場に応じて自分の考えを文章にまとめる力を育成する。外部模試なども活用しながら生徒の進路に応じた個別指導を充実させる。	B		
地歴・公民科	日本国及び世界の国々が形成される歴史的過程と地域的特色の違い及び現代の社会についての理解と知識の深化を図る。	教科書のみならず、新聞や視聴覚教材など多種多様な教材を用いながら、授業内容を分かりやすく伝える工夫をする。また適宜問いかけを入れながら、理解度を確認していく。基本的な内容を精選し、それぞれの科目の特徴を生かした指導内容を構成する。	A	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・社会情勢の変化を踏まえて、今後も多様な教材を用意して、生徒が興味を持って取り組める授業を目指す。</li> <li>・基本的な授業の環境整備は継続する。卒業後、自分なりの考えを持ち、適確な判断と行動がとれるよう指導する。</li> </ul>
	現代の国際社会に主体的に生きる市民的・平和的な国家・社会の一市民として必要な自覚と資質を涵養する。	授業に臨む姿勢を整えさせる。内容としては、時事的な現在進行形で起きている社会事象も適宜扱う。ノート提出・小テストの実施等を定期的実践し、生徒が現代社会に必要な知識・教養を身に付けられるよう指導する。	A		
			A		
数学科	基礎学力の向上	基礎・基本の定着を図るため、教科内で積極的に情報交換し生徒の実態に沿った授業を展開する。基礎学力が定着していない生徒へ個別指導を実施し、基礎の定着を図る。進学希望の生徒に対して、希望する進路に沿って個別に課外を実施し対応する。	A	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒の実態に沿った授業を展開し、数学の基礎学力向上に努める。課外や個別指導を充実させ、生徒の進路や習熟に対応する。</li> <li>・数学検定への参加を積極的に呼びかけ、学習意欲の向上に努める。</li> </ul>
	数学検定資格取得の奨励	学期に1回を目安に実施し、資格取得を積極的に促し、課外や個別指導を実施する。	B		
理科	教員の指導力の向上	積極的な授業公開や、授業内容や指導法について情報交換を行い、自己研鑽に努める。	A	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・基礎学力の向上を更に目指す。</li> <li>・進路に応じた指導の継続を図る。</li> </ul>
	基礎学力の向上	各科の学習内容と関連した授業内容を精選し、本校生にあった教材を作成する。	A		
	興味・関心の向上	科学のトピックスの紹介などを通して、農業と生物・化学の関連性を理解させる。	B		
保健体育科	進路指導への積極的な関わり	進学者を対象にした生物・化学分野の課外の実施と個別指導を充実させる。	A	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・運動の特性に応じた課題解決の工夫ができるようにすると共に、興味を示す授業展開を目指す。</li> <li>・生涯にわたり運動ができるように基礎基本を身に付けさせる。</li> </ul>
	協調性や協力性の育成	生涯にわたり継続して運動に親しむ力の育成を図る。集団としてのきまりを守って、活動できる体育学習を展開する。目標の解決を目指して仲間と協力し、運動に取り組ませる。	A		
			A		

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価		次年度(学期)への主な課題
芸 術	基礎学力の向上	提出物を確認し、生徒の技量を確認する。 名品・名跡を鑑賞し、自己の向上を図らせる。	A	A	・生徒の技量(技術力と鑑賞力)の更なる向上のための新たな工夫を試みたい。
英 語 科	基礎学力の向上	単語練習や英文理解の反復練習や辞書や副教材等を活用し、基礎から学習できる環境を与え、きめ細かな指導を行う。 教科書やノートの準備等、授業に臨む態度を確立させる。	B	B	・基本的な学習習慣を確立させる。教科書や問題集等の副教材を利用し、より発展的な学習を進められるように実践指導する。STEP英検においては3級の取得を目指す。ALTの来校時は授業内において積極的なティームティーチングを実施し、よりコミュニケーションな技能の育成を目指す。
	モチベーションの向上	ALTを活用し、より実践的な生きた英語を学ぶ機会を与える。 簡単な内容を理解させ自信を付けさせ、学習のモチベーションを高めさせる。	B		
	資格取得の奨励	授業中、積極的に資格取得を呼びかけ、英検対策の課外・面接を積極的に行う。 STEP英検等、より上位の資格取得を奨励する。	B		
家 庭 科	家庭生活の課題を主体的に解決する能力の涵養	実験・実習等を通して基本・基礎的知識や技術の習得を図るとともに、心の触れ合いを持ち、豊かな人間性と生きる力を育む。	A	A	・用具・器具の後片付けを徹底させる。 ・静かに話を聞く態度を育成する。 ・個別指導では、心の触れ合いを持ちながら、粘り強く学習に取り組む態度を養う。
	家庭生活の充実向上を図る能力と実践的な態度の育成	体験学習・視聴覚教材の利用・新聞記事の活用などにより生徒の興味・関心を高め、家庭生活をより身近な問題として捉えさせる。	B		